

## 主要参考文献一覽

- 『古事記・祝詞』日本古典文学大系 岩波書店 一九五八年  
『日本書紀』上 日本古典文学大系 岩波書店 一九六七年  
『日本書紀』下 日本古典文学大系 岩波書店 一九六五年  
『魏志東夷伝』岩波文庫 一九五一年  
『後漢書倭伝』岩波文庫 一九八五年  
『古語拾遺』岩波文庫 岩波書店 一九八五年  
『北山抄』神道大系 神道大系編纂会 一九九二年  
『江家次第』神道大系 神道大系編纂会 一九九一年  
『令集解』国書刊行会 一九二四年  
『令義解』国史大系 吉川弘文館 一九五一年  
『延喜式』第三卷 日本古典全集刊行会 一九二八年  
『儀式・内裏式』『神道大系』朝儀祭祀編一 儀式・内裏式 (財)神道大系編纂会 一九八〇年  
『大内裏図考証』第三 新訂増補故実叢書 第八回 明治図書出版株式会社 吉川弘文館 一九五二年  
『先代旧事本記』批評社 二〇〇一年  
『三国史記』国書刊行会 一九七一年  
『三国遺事』国書刊行会 一九七一年  
『旧約聖書』日本聖書協会 一九九五年  
『万葉集』二 日本古典文学大系 岩波書店 一九五九年  
『万葉集』三 日本古典文学大系 岩波書店 一九六〇年

- 『搜神記』東洋文庫 平凡社 一九六四年
- 『教訓抄』『古代中世芸術論』岩波書店 一九七三年
- 『室町物語集』第四卷 角川書店 一九七六年
- 『明宿集』『金春古伝書集成』わんや書店 一九六九年
- 『伴信友全集』第一 国書刊行会 一九〇七年
- 『謡曲集』下 日本古典文学大系 岩波書店 一九六三年
- 『金沢文庫資料全書』第七卷 歌謡・声明編 神奈川県立金沢文庫 一九八四年
- 『神道大辞典』平凡社 一九三七年～一九四〇年
- 『日本音楽大事典』平凡社 一九八九年
- 『雲州消息』『新猿楽記・雲州消息』現代思潮社 一九八二年
- 『日本昔話通観』第二卷 青森 同朋舎 一九八二年
- 『日本美術全集』第一卷 原始造形縄文弥生古墳時代の美術 講談社 一九九四年
- 『文化人類学事典』弘文堂 一九八七年
- 『日本民俗大辞典』吉川弘文館 一九九九年
- 『邦楽百科辞典』音楽之友社 一九八四年
- 青木保「神が降りる」『現代思想』vol.112の七 一九八四年七月
- 赤坂憲雄『境界の発生』砂子屋書房 一九八九年
- 赤松智成・秋葉隆『朝鮮巫俗の研究』下巻 大阪屋号書店 一九三八年
- 秋葉隆『朝鮮巫俗の現地研究』名著出版 一九五〇年
- 上尾市教育委員会『上尾の神楽と神楽師』一九九九年
- 新井恒易『続中世芸能の研究―田楽を中心として』新説書社 一九七四年
- 天野文雄「吉田家による『翁の大事』伝授の実態―天理図書館吉田文庫資料を中心に―」『芸能史研究』第一一六号 一九九二年一月 のち『翁

- 猿楽研究』和泉書院 一九九五年に所収
- 網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』岩波書店 一九八四年
- 鮎貝房之進『花郎放』「白丁放」「奴婢放』国書刊行会 一九七三年
- 阿南町町誌編纂委員会『阿南町誌』下巻 一九八七年
- 新井恒易『中世芸能の研究』新読書社 一九七〇年
- 新井恒易『能の研究―古猿楽の翁と能の伝承』新読書社 一九六六年
- 森町史編さん委員会編『森町史』資料編 五 一九九六年
- 有山大五・石内徹・馬渡憲三郎 編『迢空・折口信夫事典』勉誠出版 二〇〇〇年
- 庵原健「つぶろさし」『佐渡史学』第二集 佐渡史学会 一九六〇年
- 池田弥三郎「さんばの語源を遡る」『季刊邦楽』第七号 一九七四年 四月
- 池田弥三郎「芸能の観客」『芸能復興』第四号 一九五三年八月
- 池田弥三郎「雪祭りと芸能史」『池田弥三郎著作集』第三卷 角川書店 一九七九年
- 石井一躬「もどきの理念―源氏物語を中心として―」『儀礼文化』第一一号 一九八八年四月
- 石井一躬「儀礼的性格を獲得―西浦田楽にみるもどき」『儀礼文化ニュース』(特集 もどきについて考える) 第六六号 一九九二年七月一日
- 石川純一郎「口寄せの伝承―八戸市周辺の場合―」『国学院大学日本文化研究所紀要』第三四輯 一九七四年
- 石塚尊俊『西日本諸神楽の研究』慶友社 一九七九年
- 石塚尊俊「神楽とシヤマニズム」『日本のシヤマニズムとその周辺』(加藤九祚編) 日本放送出版協会 一九八四年
- 石塚尊俊「備中荒神神楽の研究」『国学院雑誌』第六二卷第一〇号 一九六二年
- 伊藤重吉・伊藤貞造 共述 『花祭―解説並に舞子』一九五二年
- 井浦芳信「神道猿楽観の展開と秘伝の継承―静嘉堂文庫蔵杉立轟本『神道猿楽伝』の成立まで―」『人文科学紀要』第五一輯 国文学・漢文学
- XV 東京大教養学部人文科学科 国文学研究室・漢文学研究室編 一九九八年
- 井之口章次『日本の葬式』筑摩叢書 一九七七年

- 白石昭臣『日本人と祖霊信仰』雄山閣 一九七七年
- 岩崎敏夫『東北民間信仰の研究』上 名著出版 一九八二年
- 岩田勝「身ウリ能の形成と伝播」『山陰民俗』第三六号 山陰民俗学会 一九八一年
- 岩田勝「境界の、祭儀Ⅱ芸能、としての神楽」『芸能』芸能学会 一九九〇年七月
- 岩田勝「大元神楽現地公開見学記」『邑智郡大元神楽』一九八二年
- 岩田勝「鎮魂の神楽と神楽歌―近世前期における備後の浄土神楽と能―」『芸能史研究』第七一号 一九八〇年一〇月
- 岩田勝「天石窟の前における鎮魂の祭儀」『神楽』歴史民俗学論集一 名著出版 一九九〇年
- 岩田勝『神楽源流考』名著出版 一九八三年
- 岩田勝『神楽新考』名著出版 一九九二年
- 岩田勝編『神楽』歴史民俗学論集一 名著出版 一九九〇年
- 上田正昭「神楽の命脈」『日本の古典芸能』第一卷 神楽 平凡社 一九六九年
- 上田正昭『古代伝承史の研究』塙書房 一九九一年
- 植松明石『神々の祭祀』凱風社 一九九一年
- 牛尾三千夫「大元神楽について」『邑智郡大元神楽』一九八二年
- 牛尾三千夫「大元神楽に於ける託宣の古儀」『日本民俗学』第一号 実業之日本社 一九五三年五月、のち『神楽と神がかり』に所収
- 牛尾三千夫「神がかりと芸能」本田安次編『芸能 講座日本の民俗Ⅷ』有精堂出版 一九七九年
- 牛尾三千夫「備後の荒神神楽について」五来重編『修験道の美術・芸能・文学』Ⅱ 名著出版 一九八一年、のち『神楽と神がかり』に所収
- 牛尾三千夫『神楽と神がかり』名著出版 一九八五年
- 牛尾三千夫『美しい村―民俗探訪記』石見郷土研究懇話会 一九七七年
- 白田甚五郎『道行の源流(上代)』『国語科通信』一四 一九六九年一月
- 白田甚五郎・新間進一校注・訳『神楽歌・催馬楽・梁塵秘抄・閑吟集』日本古典文学全集 小学館 一九七六年
- 白田甚五郎『民俗芸能の性格とその美』『国文学 解釈と教材の研究』第一四卷第一号 学燈社 一九六九年八月

- B. E. イエンゼン著 大林太良・牛島巖・樋口大介訳『殺された女神』弘文堂 一九七七年  
 フアン・ヘネップ(綾部恒雄・綾部祐子訳)『通過儀礼』弘文堂 一九七七年  
 江坂輝弥『土偶』校倉書房 一九六〇年  
 エドモンド・リーチ(青木保・宮坂敬造訳)『文化とコミュニケーション』紀国屋書店 一九八一年  
 『韓国巫俗と芸能』図録参照 演劇博物館編 二〇〇二年  
 大島暁雄 他編『日本民俗調査報告書集成 東海の民俗 静岡県編』三一書房 一九九六年  
 大島建彦『民俗信仰の神々』三弥井書店 二〇〇三年  
 大槻如電『新訂舞楽図説』左 六合館 一九二七年  
 大西昇『道行的形式に就いて』『哲学年誌(早稲田大学)』第一一号 一九四一年  
 大林太良編『死と性と月と豊穰』評論社 一九七五年  
 岡田精司『古代祭祀の史的研究』塙書房 一九九二年  
 岡田精司編『大嘗祭と新嘗』学生社 一九七九年  
 小笠原恭子『芸能の視座―日本芸能の発想』桜楓社 一九八四年  
 翁三番叟民俗学・思想的研究会『私立大学学術研究高度化推進事業―日本・アジア演劇芸能共同研究』早稲田大学演劇博物館 二〇〇二年  
 小手川善次郎『高千穂神楽』小手川善次郎遺稿出版会 一九七六年  
 新井恒易「新野 伊豆神社の芸能」『中世芸能の研究』新読書社 一九七〇年  
 折口信夫「翁の発生」『折口信夫全集』第二卷 中央公論社 一九六五年  
 折口信夫「鬼の話」『折口信夫全集』第一〇卷 中央公論社 一九六六年  
 折口信夫「大嘗祭の本義」『折口信夫全集』第三卷 中央公論社 一九六六年  
 折口信夫「日本芸能の特殊性」『折口信夫全集』第一七卷 中央公論社 一九六七年  
 折口信夫「能楽における「わき」の意義」『折口信夫全集』第三卷 中央公論社 一九六六年

- 折口信夫「巫女と遊女と」『折口信夫全集』第二二卷 中央公論社 一九六七年
- 折口信夫『折口信夫全集』第一八卷 中央公論社 一九五五年
- 折口信夫『日本芸能史六講』講談社学術文庫 一九九一年
- 加藤九祚編『日本のシヤマニズムとその周辺』日本放送出版協会 一九八四年
- 金田一京助「山の神考」『民族』第二卷第三号 一九二七年三月
- 守屋毅編『芸能と鎮魂』春秋社 一九八八年
- 守屋毅編『祭りは神々のパフォーマンス―芸能をめぐる日本と東アジア―』力富書房 一九八七年
- 河竹登志夫「道行」にみる日本美の特質』『鈴木知太郎古稀記念 国文学論攷』一九七五年
- 河竹繁俊『日本演劇全史』岩波書店 一九五九年
- 神田より子「下北の能舞にみられる三番叟」『三田国文』創刊号 一九八三年一月
- 神田より子「芸能伝承」『宮古市史』民俗編下巻 宮古市教育委員会 一九九四年
- 神田より子「陸中沿岸の廻り神楽」『民俗芸能研究』第二八号 民俗芸能学会 一九九九年三月
- 北岸佑吉「鴨川住吉の芸能」『芸能』第二卷一―号 一九六〇年一月
- 吉川周平「静寂が破られ、立ち上がって走る―護法祭の神がかりの表現と環境」『音のフィードバック』民博「音楽」共同研究編 一九九六年
- 金聖培『韓国の民俗』韓国文化叢書4 成甲書房 一九八二年
- 金両基「白い神と黒い神の道―翁源流考―」『祭りは神々のパフォーマンス』梅棹忠夫監修・守屋毅編 力富書房 一九八七年
- 京都国立博物館編『古面』岩波書店 一九八二年
- 倉林正次「芸能の伝播―霊祭神楽考(二)」『国学院雑誌』一九六一年四月
- 倉林正次『祭りの構造』日本放送出版協会 一九七五年
- 倉林正次「祭りの原形―大嘗祭の行われるまで―」『大嘗祭を考える』国学院大学院院友会編 桜楓社 一九九〇年
- 倉林正次「鷲宮神社の催馬楽神楽」『埼玉県民俗芸能誌』錦正社 一九八〇年

- 桑山太市『新潟県民俗芸能誌』錦正社 一九七二年
- 郡司正勝「道行の発想」『かぶきの美学』一九六三年
- 郡司正勝『かぶきの美学』演劇出版社 一九七二年
- 郡司正勝『古典芸能 鉛と水銀』西沢書店 一九七五年
- 小林茂美「韓神の芸能伝承論—園韓神祭における神宝舞からのアプローチ」『朱』第三二号 伏見稲荷大社 一九八七年六月
- 小林英一「神戸市のお面掛け—近代に創始された《翁》の一演式」『表演』第二号 (財)兵庫現代芸術劇場 一九九三年三月
- 小林英一「播磨のお面掛け—姫路藩の遺風を伝える「ひとり翁」—」『表演』第三号 一九九五年三月
- 小松和彦『異人論—民俗文化の心性』青土社 一九八五年
- 小松和彦『憑霊信仰論』講談社学術文庫 一九九四年
- 小寺融吉「新野の雪祭」『柳田國男古稀祝賀記念論集』抜刷 一九四八年(出版社不明)
- 小寺融吉「能楽が嗣いだ神楽の伝統」『民俗芸術』第二卷二号 一九二九年二月
- 後藤淑「翁と神」『芸能論纂』錦正社 一九七六年
- 後藤淑「宮廷御神楽雑考」『芸能』第一八卷第一号 一九七六年一月
- 後藤淑「君田楽ほか」『演劇研究』第八号 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 一九七六年
- 後藤淑『続能楽の起源』木耳社 一九八一年
- 後藤淑『中世仮面の歴史的・民俗学的研究』多賀出版 一九八七年
- 後藤淑『民間仮面史の基礎的研究』錦正社 一九九五年
- 五来重「布橋大湊頂と白山信仰」『白山・立山と北陸修験道』名著出版 一九七七年
- 五来重『日本人の死生観』角川書店 一九九四年
- 五来重『芸能の起源』角川書店 一九九五年
- 五来重『葬と供養』東方出版 一九九二年
- 崔吉城(福留範昭訳)『韓国のシャーマン』国文社 一九八四年

- 西郷信綱『古事記の世界』岩波書店 一九六七年
- 西郷信綱『古事記研究』未來社 一九七三年
- 斎藤修平「里神楽研究序説―芸能研究をめざして―」『埼玉県立民俗文化センター研究紀要』第二号 一九八五年
- 斉藤英喜「宮廷神楽の神話学―園韓神楽儀の伎芸と言説をめぐる―」『祭儀と言説―生成の（現場）へ』森話社 一九九九年
- 阪倉篤義「ワキの意味―付、オカシ・オコツリ・ワザオキ―」『芸能史研究』第八四号 一九八四年一月
- 桜井満編『神の島の祭りイザイホー』雄山閣 一九七九年
- 桜井徳太郎『日本のシャーマニズム』上巻 吉川弘文館 一九七四年
- 桜井弘人「遠山霜月祭の面―その構成のあり方と変容過程」『遠山の霜月祭考』後藤総一郎・遠山常民大学編 南信州新聞社出版局 一九九三年
- 桜井弘人「新野雪祭について―サイホウを中心として―」『飯田市美術博物館 研究紀要』第五号 一九九五年三月
- 桜井満編『久高島の祭りと伝承』桜楓社 一九九一年
- 佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』新曜社 一九九四年
- 佐々木宏幹『シャーマニズムの人類学』弘文堂 一九八四年
- 佐々木宏幹『シャーマニズムの世界』講談社 一九九二年
- 佐々木宏幹『シャーマニズム：エクスタシーと憑霊の文化』中央公論社 一九八〇年
- 山陰民俗学会『神楽と風流』島根日日新聞社 一九九六年
- のぶらっかー（秋山さと子訳）『あざさ弓』（上・下）岩波書店 一九七九年
- 島根県邑智郡桜江町教育委員会刊『邑智郡大元神楽』一九八二年
- 下野敏見「鹿兒島県の祭りと芸能」『祭りと芸能の旅 六 九州・沖縄』榊ぎょうせい 一九七八年五月
- 白石光邦『祝詞の研究』至文堂 一九四一年
- 白水寛子「木曾御嶽講の御座」『山の祭りと芸能』宮家準編 平河出版社 一九四八年
- 新谷尚紀『日本人の葬儀』紀伊國屋書店 一九九二年



新谷尚紀『ケガレからカミへ』木耳社 一九八七年

J.E.ハリソン(佐々木理訳)『古代芸術と祭祀』(Ancient Art and Ritual) 筑摩書房 一九六四年

ジャクリヌ・ビジョー「お伽草紙における道行文」『文学』Vol.四三 岩波書店 一九八七年六月

張師勳(金忠鉉訳)『韓国の伝統音楽』韓国文化選書九 成甲書房 一九八四年

趙興胤(李恵玉編訳・小川晴久監修)『韓国の巫・シャーマニズム』彩流社 二〇〇二年

鈴木貞吉「石器時代の仮面」『考古学雑誌』第一八卷第九号 一九二八年九月

鈴木棠三『対馬の神道』三一書房 一九七二年

鈴木昭英「越後八海山行者の憑祈祷、引座」について」『論集 日本人の生活と信仰』大谷大学国史学会 一九七九年

鈴木正崇・野村伸一編『仮面と巫俗の研究—日本と韓国』第一書房 一九九九年

鈴木正崇「荒神神楽にみる現世と他界」『祭りは神々のパフォーマンス』力富書房 一九八七年

鈴木正崇「荒神神楽にみる自然と人間」『日本民俗学』第一二五号 一九七九年

鈴木正崇「神楽と鎮魂—荒神祭祀にみる神と人」『芸能と鎮魂』守屋毅編 春秋社 一九八八年

須永朝彦『伝綺』国書刊行会 一九九六年

諏訪春雄・川村湊編『アジア稲作民の民俗と芸能』雄山閣出版社 一九九四年

諏訪春雄「花道の誕生」『文学』四 Vol.五五 岩波書店 一九八七年

諏訪春雄「儀礼と芸能—日韓中祭祀の構造」『文学』Vol.五六 岩波書店 一九八八年八月

諏訪春雄・川村湊編『アジア稲作民の民俗と芸能』雄山閣 一九九四年

徐廷範『韓国のシャーマニズム』同朋舎出版 一九八〇年

外村南都子「早歌における道行の研究」秋山虔編『中世文学の研究』一九七二年

孫晋泰『朝鮮民談集』郷土研究社 一九三〇年

高岡功「病人」をムシロで囲い「仏」にする話—岩船郡山北町山熊田—『高志路』通巻第二二八号 新潟県民俗学会 一九七三年

高木敏雄『日本の伝説集』「怨霊伝説—女殺し」武蔵野書院 一九一三年

- 高松敬吉『巫俗と他界観の民俗学的研究』法政大学出版局 一九九三年
- 竹内幸夫『大元神楽』柏村印刷株式会社出版部 一九九五年
- 武田明『日本人の死霊観 四国民俗誌』三一書房 一九八七年
- 滝川政次郎『遊女の歴史』至文堂 一九六五年
- 田中允編『未刊謡曲集 続一四』古典文庫 一九九四年
- 田辺尚雄「雅楽の源流」『日本の古典芸能』第二卷 雅楽 平凡社 一九七〇年
- 田辺尚雄「番舞のこと」国立劇場第一七回雅楽公演パンフレット 国立劇場事業部 一九七四年
- 田辺尚雄『日本音楽概論』音楽之友社 一九六一年
- 田辺尚雄『日本音楽史』東京電機大学出版部 一九六三年
- 田辺尚雄「雅楽と伎楽」岩波講座日本文学 第二卷六 岩波書店 一九三二年
- 大藤時彦「芸能と民俗学」『芸能復興』第一八号 一九五八年四月
- 崔吉城『韓国のシャーマニズム——社会人類学的研究——』弘文堂 一九八四年
- 張壽根（松本誠一訳）『韓国の郷土信仰』第一書房 一九八二年
- 朝鮮遺跡遺物図鑑編纂委員会『朝鮮遺跡遺物図鑑（五）』一九九〇年
- 次田潤『祝詞新講』明治書院 一九二七年
- 津田左右吉『日本文芸の研究』岩波書店・一九五三年
- 角田一郎「道行文研究序論」（一）、（二）『広島女子大学紀要』一・五 一九六六年三月、一九七〇年三月
- 出川清彦「清暑堂の神宴」『雅楽界』台四八号 小野雅楽会 一九六八年一〇月
- 角田一郎「道行文展開史論」『帝京大学文学部紀要』一九七八年一〇月
- 伝統芸術の会編『民俗芸能——伝統と現代』一九六九年
- 戸板康二「松と老人と」『能』第四卷第二二号 能楽協会 一九五〇年十二月
- 東儀信太郎「番舞について」国立劇場第一七回雅楽公演パンフレット 国立劇場事業部 一九七四年

- 東儀博「浦安の舞と私」『浦安の舞五十年』神社音楽協会 一九九〇年九月
- 豊島修「美作の護法まつりと修験道」『修験道の美術・芸能・文学Ⅱ』五来重編著 名著出版 一九八一年
- 豊田国夫『日本人の言霊思想』講談社 一九八〇年
- 鳥越憲三郎『琉球宗教史の研究』角川書店 一九六五年
- 鳥越文蔵「芸能における道行(中世)」『国語科通信』一四 一九六九年二月
- 土橋寛『古代歌謡と儀礼の研究』岩波書店 一九六五年
- 中村浩・三隅治雄編『雪祭り』東京堂出版 一九六九年
- 中山太郎『日本巫女史』大岡山書店 一九三〇年
- 長野県史刊行会民俗編纂委員会『長野県下伊那郡天竜村坂部民俗誌稿』一九八五年三月 長野県史刊行会民俗編纂委員会
- 西田長男『古代文学の周辺』南雲堂桜楓社 一九六四年
- 西角井正大『民俗芸能』伝統芸能シリーズ四 ぎょうせい 一九九〇年
- 西角井正慶「霊祭神楽考―隠岐芸能の一面―」『国学院雑誌』一九六〇年二・三月、
- 西角井正慶『古代祭祀と文学』中央公論社 一九六六年
- 西角井正慶『神楽歌研究』畝傍書房 一九四一年
- 西角井正慶『神楽研究』壬生書院 一九四三年
- 西角井正慶『村遊び』岩崎美術社 一九六六年
- 西村亨編『折口信夫事典』大修館書店 一九八八年
- 西牟田崇生編著『祝詞概説』国書刊行会 一九八七年
- 野上豊一郎『能 研究と発見』岩波書店 一九三〇年
- 野上豊一郎『能 研究と発見』岩波書店 一九三〇年
- 野上豊一郎『解註・謡曲全集 第六卷』中央公論社 一九三六年
- 能勢朝次『能楽源流考』岩波書店 一九三八年

- 野田安平「浦安の舞」の制定(その一)『礼典』第二五号 一九九二年六月
- 野田安平「浦安の舞」の制定(その二)『礼典』第二七号 一九九三年九月
- 野村伸一「村山智順が見た朝鮮民俗」『自然と文化』二〇〇一年三月
- 萩原秀三郎『フォークロアの眼1 神がかり』図書刊行会 一九七七年
- 萩原秀三郎『目で見る民俗神』第三卷 境と辻の神 東京美術 一九八八年
- 橋本裕之「もどき」の視線―道化から見た神代神楽― 相模原市教育委員会編『神楽と芝居―相模原及び周辺的神楽師と芸能―』一九八九年
- 橋本裕之「赤と青―もどき」をとまなう王の舞―『国立歴史民俗博物館研究報告』第六二集 一九九五年一月
- 橋本裕之「民俗芸能再考―儀礼から芸能へ、芸能から儀礼へ」『東アジアにおける民俗と芸能 国際シンポジウム論文集』一九九五年七月
- 折口信夫『折口信夫全集』第一卷 中央公論社 一九五四年
- 早川孝太郎『早川孝太郎全集』I・II 未来社 一九七一年
- 林屋辰三郎『中世芸能史の研究』岩波書店 一九六〇年
- 比嘉康雄「イザイホー」『神々の祭祀』(植松明石編) 一九九一年
- 肥後和男『古代伝承研究』アジア図書センター企画部 一九八五年
- 玄容駿『济州島巫俗の研究』第一書房 一九八五年
- 黄縷詩『韓国人のグツとムーダン』文音社 一九八八年
- 黄縷詩・崔吉城・金守男『全羅道シッキムグツ』悦話堂 一九八五年
- 福島真人「儀礼から芸能へ―あるいは見られる身体の構築」『身体の構築学』ひつじ書房 一九九五年
- 藤森裕治『死と豊穡の民俗文化』吉川弘文館 二〇〇〇年
- 二上山鎮守護法祭祀記録保存委員会・中央町教育委員会編『両山寺の護法祭』 一九八〇年
- 文化庁監修『日本民俗芸能事典』一九七六年
- 堀一郎『日本のシャーマニズム』講談社 一九七一年
- 本田安次・山路興造編『天津司舞』財団法人観光資源保護財団 一九七六年

- 本田安次・山路興造『大元神楽―伝承された神懸の古式―』観光資源保護財団 一九七七年
- 本田安次「宮廷御神楽考」『本田安次著作集 日本の伝統芸能』第一巻 錦正社 一九九三年
- 本田安次「新野の雪祭」『延年』木耳社 一九六九年
- 本田安次「民俗芸能の研究について」『芸能復興』第一八号 一九五八年四月
- 本田安次『翁そのほか』明善堂書店 一九五八年
- 本田安次『山伏神楽・番楽』財団法人齋藤法報恩会 一九三九年
- 本田安次『神楽』木耳社 一九六六年
- 本田安次『霜月神楽之研究』明善堂書店 一九五四年
- 本田安次『田楽・風流(一)』木耳社 一九六七年
- 本田安次『東京都民俗芸能誌』上巻 錦正社 一九八四年
- 本田安次『日本の祭と芸能』錦正社 一九七四年
- 本田安次『本田安次著作集 日本の伝統芸能』第六巻 錦正社 一九九五年
- 本田安次『民俗芸能の研究』明治書院 一九八三年
- 本田安次編『芸能―講座日本の民俗』八 有精堂 一九七九年
- 本田安次編『講座日本の民俗8 芸能』有精堂出版 一九七九年
- マイケル・ベナモウ／チャールズ・カラメロ編(山田恒人／永田靖訳) 国文社 一九八九年
- 牧田茂「七つ橋考」『久高島の祭り』桜井満編 桜楓社 一九九一年
- 松浦康麿「隠岐に於ける葬祭霊神楽について」『山陰研究』遠藤文庫 第二冊 一九五五年
- 松浦康麿「隠岐の神楽」『芸能復興』第八号 一九五五年
- 松浦康麿「隠岐島の葬祭霊神楽について」『島前の文化財』第二号 隠岐島前教育委員会 一九七二年
- 松崎仁「道行の二つの顔(近世)」『国語科通信』一四 一九六九年十一月
- 松本信弘『日本神話の研究』東洋文庫 平凡社 一九七一年

- 真弓常忠『神と祭りの世界―祭祀の本質と神道―』朱鷺書房 一九八五年
- 三浦秀有「護法祭」『美作の民俗』吉川弘文館 一九六三年
- 水窪町教育委員会『水窪 静岡県磐田郡水窪町民俗資料緊急調査報告書』水窪町教育委員会 一九六八年
- 水窪町史編さん委員会『水窪町史』下巻 水窪町 一九八三年
- 三品彰英『建国神話の諸問題』三品彰英論文集 第二卷 平凡社 一九七一年
- 三品彰英『古事記大成 神話民俗篇』平凡社 一九五八年
- 三品彰英『古代祭政と穀霊信仰』三品彰英論文集 第五卷 平凡社 一九八三年
- 三品彰英『新羅花郎の研究』三品彰英論文集 第六卷 平凡社 一九七四年
- 三隅治雄「民俗芸能研究の歴史と現状と展望」『民俗芸能研究』創刊号 一九八五年五月
- 三隅治雄『祭りと神々の世界』日本放送出版協会 一九七九年
- 三隅治雄『日本民俗芸能概論』東京堂出版 一九七二年
- 松前健『古代伝承と宮廷祭祀』塙書房 一九七四年
- 宮家準 編『山の祭りと芸能』上・下 平河出版社 一九八四年
- 宮家準『修験道儀礼の研究』春秋社 一九七一年
- 宮家準編『修験道辞典』東京堂出版 一九八六年
- 宮家登『神の民俗誌』岩波新書 一九七九年
- 宮田登『靈魂の民俗学』日本エディタースクール出版部 一九八八年
- 民俗芸能研究会の会・第一民俗芸能学会 編『課題としての民俗芸能研究』ひつじ書房 一九九三年
- 向山雅重「雪祭り」『日本民俗研究大系』第六卷 芸能伝承 日本民俗研究大系編集委員会編 国学院大学 一九八七年
- 村武精一『祭祀空間の構造』東京大学出版会 一九八四年

永田衡吉「十二座神楽の源流について―小国神社の舞楽と鷲宮の神楽―」『民俗芸術』第一卷第一号、第二号 一九二八年一月、二月

- 柳田国男「祭から祭礼へ」『定本柳田国男集』第一〇卷 筑摩書房 一九六九年
- 柳田国男「石神問答」『定本柳田国男集』第一二卷 筑摩書房 一九六九年
- 柳田国男『日本の祭』弘文堂書房 一九四二年
- 柳田国男「巫女考」『定本柳田国男集』第九卷 筑摩書房 一九六九年
- 山折哲雄『神から翁へ』青土社 一九八四年
- 山折哲雄「方法としての「もどき」―折口信夫の場合―」『日本研究』第一集 国際日本文化研究センター紀要 一九八九年五月
- 山折哲雄『死の民俗学』岩波書店 二〇〇四年
- 山折哲雄『神と翁の民俗学』講談社 一九九一年
- 山折哲雄『神と仏』講談社 一九八三年
- 山折哲雄『日本の神1 神の始原』平凡社 一九九五年
- 山折哲雄『日本の神3 神の顕現』平凡社 一九九六年
- 山上伊豆母編 呪禱と芸能』講座日本の古代信仰 第五卷 学生社 一九八〇年
- 山口県教育委員会『山口県文化財概要』一九六二年
- 山口県教育委員会刊『山口県の文化財』一九六八年
- 山下文男『昭和東北大凶作…娘身売りと欠食児童』無明舎出版 二〇〇一年
- 山路興造 翻刻「戸宇栃木家蔵寛文四年能本」『日本庶民文化史料集成 第一卷』三一書房 一九七四年
- 山路興造「伎楽・舞楽の地方伝播」『民俗芸能研究』創刊号 民俗芸能学会編 一九八五年五月
- 山路興造「神がかりから芸能へ」『祭りは神々のパフォーマンス』力富書房 一九八七年
- 山路興造「西浦田楽」『民俗文化研究所紀要』第一集 一九六四年
- 山路興造「播州上鴨川の翁舞」『日本庶民文化史料集成』第二卷 田楽・猿楽 芸能史研究会 一九七四年
- 山路興造『天津司舞』財団法人観光資源保護財団 一九七六年
- 山中襄太『方言俗語語源辞典』校倉書房 一九七〇年

- 山根堅一『備中神楽』岡山文庫 四九 日本文教出版株式会社 一九八二年
- 山根堅一『備中神代神楽』備中神楽保存会 一九五四年
- 山木九市『備中神楽の研究』岡山民俗叢書 第八篇 中国民俗学会 一九三四年
- 山本修之助『佐渡の島』池田屋書店 一九五三年七月
- 横上若太郎「荒神かぐらとロックウ神楽」『岡山民俗』第五〇号 一九六二年七月
- 横山正「浄瑠璃の道行」『浄瑠璃操芝居の研究』一九六三年
- 吉田敦彦『昔話の考古学』中公新書 一九九二年
- 吉田敦彦『縄文土偶の神話学』名著刊行会 一九八六年
- ヨハン・ホイジンガ（高橋英夫訳）『ホモ・ルーデンス—人類文化と遊戯』中央公論社 一九七四年
- Richard Schechner『Between theater and anthropology』University of Pennsylvania press 一九八五年
- ロジェ・カイヨワ（多田道太郎・塚崎幹夫訳）『遊びと人間』講談社 一九九〇年
- 早稲田大学日本民俗学研究会『木沢の民俗—長野県下伊那郡南信濃村木沢—』一九八六年
- 渡辺勝義『鎮魂祭の研究』名著出版 一九九四年
- 渡辺勝義「平安時代の宮中祭祀について—鎮魂祭の祭日を中心として—」『宗教研究』第六六卷第四輯 日本宗教学会 一九九三年三月
- 渡辺昭五編『日本伝説大系』第七巻 みずうみ書房 一九八二年
- 渡辺伸夫「椎葉神楽発掘」一一三 願の紐『広報しいば』一九九一年一月
- 渡辺伸夫「椎葉神楽発掘」九九 葬送と神楽 『広報しいば』一九八九年五月
- 渡辺伸夫「椎葉村梅尾、葬送の神楽「舞出し」」『民俗と歴史』第二三三号 民俗と歴史の会 一九九一年
- 渡辺伸夫『椎葉神楽調査報告書』第二集 椎葉神楽記録作成委員会・椎葉村教育委員会編 椎葉村教育委員会 一九八三年
- 和田清・石原道博編訳『後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波書店 一九五一年
- V. W. ターナー（山田恒人・永田靖訳）「枠組み、フロア、内省—共同体のリミナリティとしての儀礼と演劇」『ポストモダン文化のパフォーマンス』国文社 一九八九年



- V・W・ターナー (梶原景昭訳) 『象徴と社会』 紀伊国屋書店 一九八一年  
 V・W・ターナー (富倉光雄訳) 『儀礼の過程』 新思素社 一九七六年

### 韓国語図書

- 『朝鮮王朝実録』 國史編纂委員會 一九七〇年  
 『韓国民族文化大百科事典』 韓国精神文化研究院 一九九一年  
 金憲宣 『韓国フアレンイ巫俗の歴史と原理』 知識産業者 一九九七年  
 金泰坤 『韓国巫歌集』 四 集文堂 一九八〇年  
 金憲宣 『京畿道都堂グツ巫歌の現地研究』 集文堂 一九九五年  
 趙東一 『タルチュムの歴史と原理』 弘盛社 一九七九年  
 崔吉城 『韓国巫俗誌 二』 亜細亜文化社 一九九二年  
 崔正如・徐大錫 編著 『東海岸巫歌』 螢雪出版社 一九七四年  
 朝鮮遺跡遺物図鑑編纂委員會 『朝鮮遺跡遺物図鑑 (五)、(六)』 一九九〇年  
 朝鮮総督府中枢院調査課編 『校訂 大明律直解』 朝鮮総督府中枢院 一九三六年  
 千在東 「東萊野遊研究」 『ソナンダン (城隍堂)』 韓国民俗劇研究所 一九八二年  
 朴鎮泰 『仮面戯 (タルノリ) の起源と構造』 セ文社 一九九〇年  
 朴鎮泰 『河回別神グツ仮面戯の形成と構造研究』 高麗大学校大学院 博士学位論文 一九八八年  
 黄縷詩 「ハルミ (姥)・ヨンガム (爺) ノリ (遊び) の研究」 『梨花語文論集 第五集』 梨花女子大学韓国語文学研究所 一九八二年二月  
 黄縷詩 『我時代の巫堂話』 図書出版プルビッ 二〇〇〇年

- 文化公報部文化財管理局『文化財大観（無形文化財篇）』一九八三年  
李均玉『東海岸地域の巫劇研究』図書出版バクイソン 一九九八年  
李相日『遊び文化と祝祭』成均館大学校出版部 一九八八年  
李杜鉉「韓国巫俗演戯研究」『学術院論文集（人文・社会科学篇）』第四〇集 二〇〇一年  
李杜鉉『韓国の巫俗と演戯』ソウル大学校出版部 一九九六年  
李杜鉉『韓国仮面劇』ソウル大学出版部 一九九四年  
李杜鉉『韓国仮面劇選』教文社 一九九七年  
李杜鉉『韓国民俗学論考』学研社 一九八八年  
李能和「朝鮮巫俗考」『啓明』一九二七年